

関係団体ヒアリングの結果について

	団体名等	担当部署	ページ
1	公益社団法人狛江市医師会 学校医担当理事 染谷泰寿先生	学校教育課	P 1
2	SORANA の会（障がい児保護者の団体）	教育支援課	P 2
3	狛江市手をつなぐ親の会	教育支援課 指導室	P 4
4	学校法人創志学園（こども教育支援財団）	教育支援課 指導室	P 6
5	特定非営利活動法人狛江市スポーツ協会 （旧狛江市体育協会）	社会教育課	P 8
6	狛江市立公民館運営審議会	公民館	P 10
7	狛江市立図書館協議会	図書館	P 12

教育振興基本計画策定に関するヒアリングシート

団体名等	公益社団法人 狛江市医師会 学校医担当理事 染谷泰寿先生
担当部署名	学校教育課
ヒアリング日時	令和6年7月2日(火) 17時40分～18時50分
ヒアリング場所	染谷クリニック

■共通事項

1 現在、課題として考えていることは何でしょうか。

・がん教育は「がんを教える」のではなく「がんで教える」
→医師に限らず薬剤師やがん経験者等多様な立場からの生の声を聞いて、がん患者本人や家族、遺族等の気持ちが分かるようになってほしい。
→「がん」をとおして、生活習慣病予防、性教育、人権教育等ができる。
・保健だよりを活用して伝えることも必要
→メール配信はカラーのデータを送ることができるので有効
・保護者にもがんやワクチンに対する知識を伝え、家庭や地域でも学ぶことが大切
・養護教諭と連携して、例えばHPVワクチンや子宮頸がんなどのがんに対する知識や性教育などを行うことが必要
・がん教育を中学校だけでなく小学校でも行い、小学校と中学校で同じレベルのがん教育を受けてもらうことが必要

2 狛江市の教育に期待することがあれば、教えてください。

・新型コロナ禍でストップしたものを再開し、顔の見える関係を取り戻してほしい。
・新型コロナ前以上の教育活動を行うことによって、一人ひとりの子どもたちが力強く育ってほしい。

■個別事項

1 長年、狛江市で学校医を経験して思うことは何でしょうか。

・長年、中学校と高等学校の学校医を経験して思うこと
→手厚く対応できる中学校のうちにしっかり教育することが大切
→狛江市は、家庭環境が安定している児童・生徒が多いことや、小中学校の連携、学校内での連携が良くとれているため、困っている子どもを助けながら全体で協調のとれた教育を行うことができている。それぞれが持つ児童・生徒の強みや特性を伸ばすことができるようになれば、より良いと考える。

教育振興基本計画策定に関するヒアリングシート

団体名	SORANA の会（障がい児保護者の団体）
担当部署名	教育支援課
ヒアリング日時	令和6年7月11日（木）17時30分～18時30分
ヒアリング場所	ひだまりセンター2階会議室

■共通事項

1 現在、課題として考えていることは何でしょうか。

（団体としての課題）

○組織の継続性

・やることが多く、担い手が少ない。会員になることで仕事、役割が発生することへの負担感がある。子育て中というだけでも忙しいが、子どもに障がいなど特性があるとさらに余裕がなくなる。

・今や情報はどこでも取れるため、あえて団体に参加する必要もないと考える人もいる。

・就学相談の結果と実際の進路にギャップがあるのは、障がい（特性）に対し親が受容できていないところもあると感じる。そのような親に対して、障がい（特性）があるのも本人の個性であり、環境を整えるのが周囲の大人が考え、すべきことだと伝えていきたい。先輩としての話を伝える、また実際に自分たちの子どもや親が楽しそうに生活している状況を見せることが会としての役割（できること）だが、新規会員が増えず、また会での役割を担えないと辞めていく人が多く、現状は厳しい。

（地域の課題）

・共働き世帯が多く、保護者が働きながら、子どもをどう育てていけるかを考えている方が多く、送迎がある、放課後の居場所もあるといったところを進路として選んでいるように感じる。（子どもにとって最適な場を選べる環境整備が必要）

・支援者が、親に子どもの発達特性を伝えられない現状があると聞いたことがあるが、必ずどこかにつながる仕組みづくりが必要

2 狛江市の教育に期待することがあれば、教えてください。

・子どもたちに地域の中で、無理なく育ていける環境を整えてほしい。

・狛江市は狭い地域なので、自分ごととして捉えられる、人と人が（ゆるく）つながれる環境を整えてほしい。

・知らないことは不安につながる。障がいのある人に接したことがない子どもは（障がいのある人が加害者になった事件の報道などの影響のみを受けて）偏見を持つ可能性が高いことを教育に関わる人は意識し、偏見・差別のない社会を作るためにできることを実践してほしい。

■個別事項

その他（フリートーク）

（副籍交流について）

- ・子どもの特性によっては交流そのものが難しい側面もあるが、子どもの特性に応じた交流ができるとよい。例えば、落ち着いた環境で交流できるなどの環境づくりが必要。オンラインでやることも一つの手法だと思う。
- ・交流することで、子どもにとって負担になることもあるので、そういったことも考える必要がある。

（発達に特性のある外国籍の子どもについて）

- ・外国籍の人が増えており、子どもに特性があっても、言語の壁があり、子どもの状態を理解してもらえない。外国籍の子どもをもつ親が、日本語を学べる場があるとよい。（海外では、そういった方々が集まって、公民館のようなところで、現地の方に教えてもらうといった事例もある。）学校からの通信についても、簡単に多言語化できるような仕組みがあると良いのではないか。

（放課後の居場所について）

発達に課題を抱える子どもの居場所が必要。特に高学年になると学童にも入所しにくくなるため、そうした子どもが安心して過ごせる場があるとよい。

（その他）

現計画は、コロナ禍前の状況で策定し、策定直後にコロナ禍を迎えた。コロナ禍の取組や対応を総括し、その教訓を生かせる計画にしてほしい。

教育振興基本計画策定に関するヒアリングシート

団体名	狛江市手をつなぐ親の会
担当部署名	教育支援課・指導室
ヒアリング日時	令和6年7月16日（火）11時～12時
ヒアリング場所	防災センター302 会議室

■共通事項

1 現在、課題として考えていることは何でしょうか。

（地域の課題）

○教員の特別支援教育に対する理解が進んでいない。

・教員への悉皆研修で熱心に理解・啓発を進めていることは理解しているが、行き届いていないと感じる。実際に受け持ってみないと理解に繋がらない部分への研修が設定されるべき。例えば著名な先生による研修ではなくても、実際の校内の先生方からの困り感を教員全体で考えるなど。また、現場の先生の困り感を専門家に聞いていただきアドバイスを受ける場に、通常級の先生方も同席するなど。通常級においても「あるある」事例が沢山共有できるのではないか。

・教員の主権者教育に対する理解も進んでいない。悉皆研修で実施すべき。日常の授業の中で取り扱っていることに気が付かないため、「主権者教育・意思決定」という意識付けに繋がっていないのが残念。

○特別支援学級等の施設面での差

・地域（学校）によって、環境整備に差がある。地域で差がないよう整備すべき。格差は、施設というハード面もあるし、殊に専門家を学級に呼べる・呼べないというソフト面の格差は是正されるべき。先生と親御さんの架け橋になると思う。

○支援員の量的課題

・サポーターなど支援する人（支援員）が少ない。学校ですべてを担うのは限界がある。限界があることを、保護者家族にも率直に話せるシステムが必要。

○課題を抱える子どもの増加

・通常級にも課題を抱える子どもが多くいる。社会・地域・家庭環境など様々な要因があると思う。学校も抱え込まず、学校、福祉、医療、家庭、地域が連動する取組の構築が急務であると思う。

・学校での子どもの様子（特性）を伝えようにも親との接触自体が難しい。もう少し家庭に踏み込んでいける積極的な理念を掲げることが必要だと思う。親も学校以外のつながりが作れると良い。学校はデイサービス等の方々とも積極的に話し合う準備、話し合える環境が必要。親が学校での不満を伝えるのは通所先のことも多くある。

・医療機関を学校に呼ぶのはハードルが高い。しかし保護者が受診する日に教員と一緒に

同行をするのであれば、ハードルが下がる。むろん受診日の予約時に学校と保護者の調整が大切である。

2 狛江市の教育に期待することがあれば、教えてください。

- ・子どもたちが自分を知り、他者を知ること、また教員や親も含めて他者を知ること（共感する）ことが大事であり、「他者を想像する・他者に思いをはせる」こうしたことを子どもの教育として行っていくべきである。
- ・こうした要素を計画の理念に入れてほしい。
- ・市の強み（特別支援学級等）を活かして、通常級の子どもたちとお互いに共感できる土壌づくりを行ってほしい。日常に根付くような取組を期待している。
- ・他者への理解を深め、「知らないことが偏見と排除を生む」という、偏見が生まれる人の心の仕組みが分かる＝偏見が生まれにくいような教育をしてほしい。
- ・福祉・教育・医療の連携の充実

■個別事項

1 主権者教育について

- ・投票に関しては、選挙管理委員会・教育・福祉の横の連携が重要。
選挙管理委員会も教育も福祉も、全て人事異動があり、どうしても理解度に幅（差）があるため、担当者が代わっても同じ理解のもとで土壌を作っていく必要がある。
- ・主権者教育に対する理解を進めていくには、学校での教育が重要で、学校での教育が進まないと地域の理解にもつながっていかない。算数や国語と同じく大切な教科として学校が取り上げるように仕組みでほしい。例えばクラス委員や〇〇委員を選ぶ際にも「意識付け」をもって取り上げるか、流していくかでは全く伝わり方が違う。自分で決める、自分が決めることの責任、多数決の原理など、年齢等に合わせて教えていくことができれば、「意思決定」が特別ことではないことに「慣れる」のではないかと思う。
- ・意思決定をすることを当たり前にしていくことが重要

2 虐待に関して

- ・学校の先生の虐待に対する理解・啓発が必要。根本的に体質を変えていくのは大変だが、表現はともかく計画の中で、含められるとよい。
- ・見て見ぬふりをする事自体が「虐待そのものであること、加害者であること」を徹底的に理解してほしい。担任の王国にしてはならない。複数の目を見て、議論や意見が自由にできる学級づくりへの惜しみない支援・仕組みづくり（先生方が悩みを言える、アドバイスを受けられる等々、先生を「孤立させない」仕組みづくり）の構築が絶対に必要

教育振興基本計画策定に関するヒアリングシート

団体名	学校法人創志学園（こども教育支援財団）
担当部署名	指導室・教育支援課
ヒアリング日時	令和6年7月8日（月）11時～12時30分
ヒアリング場所	創志学園事務局

■共通事項

1 現在、課題として考えていることは何でしょうか。

・学校復帰に向けた指導を目的に実施してきたが、昨今の状況を踏まえて枠組み（組織）を変更し、通学型のフリースクールとしては通信制高等部との相互交流、接続を重点にして取組を進めている。オンラインを活用した支援についてはこども教育支援財団としても継続して行い、子どもを取り巻く環境の変化に合わせてやるべきことを変えている。

・不登校の若年化が見られ、子どもの状態も多様化しており、中学校と併用する生徒も見られている。

・子どもの選択肢を1つにせず様々なパターンを想定し支援方法を分け、自分たちだけでなく、他の民間団体等とも連携しながら取り組んでいく必要がある。

・保護者の考え方も学力重視の対応から、自分のペースで学ぶという考え方になってきた。

・毎日通う、集団に入ることができない等の苦しさを抱えている子どもやその保護者が、ペースを守れそうと通学を決めるケースもある。不登校の兆候が見られて、見学後一週間で通学を決定するケースもある。

2 狛江市の教育に期待することがあれば、教えてください。

・不登校となった理由が明確でない不透明層への対応は、コーチングをベースに、つながりや成功体験の循環を図っており、将来を見通せるような時間をもてることがポイントになる。

・一人ひとりのニーズ（発達障がい等）に合わせて、本人と保護者と課題を共有して取組を決定していくことが大切である。

■個別事項

1 学校における不登校対応の在り方や適応指導教室の運営や入室について

・在籍校に対する意識はもっているのですが、どのようにアプローチするか、集団の中でどのような役割を与えるかは、その子どもの状況により異なり、学びの場として、満足できる体験・経験を積むことで次へのステップにつなげることが大切である。

- 一人ひとりに適した環境の設定が重要である。視点を変えて、一斉授業だけでなく、様々なタイプの授業実践が期待される。子どもの課題を本人、保護者と共有することもポイントになる。
- 個別の状況を把握して、共有することで、安心感をもって取り組める環境（学びの場）とすることが必要である。

教育振興基本計画策定に関するヒアリングシート

団体名	特定非営利活動法人狛江市スポーツ協会 (旧狛江市体育協会)
担当部署名	社会教育課
ヒアリング日時	令和6年7月11日(木) 11時~12時
ヒアリング場所	狛江市スポーツ協会事務室(市民総合体育館内)

■共通事項

1 現在、課題として考えていることは何でしょうか。

1. スポーツ施設の不足

現在、陸上競技場、温水プール、フットサル場はなし

野球場(多摩川緑地グラウンドは台風19号の影響で、面積が削られ、公式戦ができない)

サッカー場(市民グラウンドは大人の公式戦ができない面積)

テニスコート(人口8万人に対し、7面は少ない)

2. スポーツ指導者の養成・育成

指導者の育成により、各競技のレベルアップを図ることが必要

指導者の育成により、部活動への指導者の派遣の道筋を付けることが出来る

3. スポーツ人口の拡大

4. スポーツ協会加盟団体と協会会員の減少

団体役員の高齢化、スポーツ協会加入者の減

2 狛江市の教育に期待することがあれば、教えてください。

1. 児童・生徒の体育授業の充実とスポーツ機会の増加、体験。それに伴う健康・体力作り

2. 中学校部活動の地域移行への取組の推進のため、学校と指導者、スポーツ協会との連携

■個別事項

1 長年、狛江市のスポーツ事業を推進して思うことは何でしょうか。

1. 子どもから高齢者まで楽しくスポーツができる環境作りが必要である。

2. スポーツ人口増加、スポーツ協会会員拡大のためにも充実した施設の増加は、絶対に必要である。

3. 青少年の健全育成、高齢者の健康増進、健康寿命の延伸を目指して活動していくことが重要である。

2 狛江市のスポーツ事業の未来として望ましい姿は何でしょうか。

- ・市民が気軽にスポーツができるようにしたい。子どもから高齢者まで長くスポーツを続け、体力向上に努め、スポーツが生きがいの一つとなるようになる。
- ・旧四小跡地の施設が幼児から高齢者まで利用できる施設となり、他市に誇れる施設となる。
- ・充実した施設があることで将来の子どもたちのためにいろいろなスポーツが体験でき、スポーツを広げるとともに競技力向上にもなり、有望な選手が狛江から誕生できるようになる。

教育振興基本計画策定に関するヒアリングシート

団体名	狛江市立公民館運営審議会
担当部署名	公民館
ヒアリング日時	令和6年6月25日（火）18時30分～19時
ヒアリング場所	中央公民館第三会議室

■共通事項

1 現在、課題として考えていることは何でしょうか。

・公共施設利用の一本化

団体活動する施設には、公民館、地域・地区センター、学校施設等があるが、手続きの方法や窓口が統一されておらず、情報や利用状況にも偏りがある。市民センターの休館をきっかけとして利用できる施設が広がればよい。

・公民館のイメージの向上

若い世代を中心に、「公民館をよく知らない」、「何をを行うところか分からない」という声がある。身近な施設として利用してもらうための取組が必要である。

2 狛江市の教育に期待することがあれば、教えてください。

・学び返しの促進、仕組みづくり

教える－教わると言った一方的な関係だけでなく、公民館を長く利用した利用者が、公民館を初めて利用する若い方に教えるといった「学び返し」を行う仕組みづくりを行うことで、地域のつながりや社会教育活動の活性化につながる。

■個別事項

1 公民館の若い層の利用を増やすためにはどうすればよいでしょうか。

・中高生の居場所・活動場所の確保

1人で集中して学習できる場、仲間と話をしながら遊べる場所等、様々な種類の居場所をつくること。

・親しみやすいイメージ

親近感が湧くネーミングを市民センター改修後に付ける。

2 時代のニーズに合わせた持続可能な公民館にするためにはどうすればよいでしょうか。

・若い世代の利用を増やす。

子どもころから公民館に親しみを持っていただくことで、大人になっても公民館を利用してもらえるような仕組みづくり。

• 公民館職員のスキルアップ

現場で働く職員が、社会教育、生涯学習に関する知識スキルを身に付けるための研修等を充実させてほしい。

教育振興基本計画策定に関するヒアリングシート

団体名	狛江市立図書館協議会
担当部署名	図書館
ヒアリング日時	令和6年7月2日（火）14時～15時
ヒアリング場所	中央図書館読書調査室 ※4人対面、1人オンラインにて実施

■共通事項

1 現在、課題として考えていることは何でしょうか。

- ・図書館活動は市民参加が進んでいるが、各活動の連携が不足しているように感じる。図書館が各活動の情報交換の場を提供することで、図書館のサポートや読書環境を整えていくグループを育てていく必要がある。
- ・図書的重要性を理解していない先生もいる。学校や先生によって、「図書の時間」に対する考え方が異なるので、統一的な考え方を示す必要があるのではないか。
- ・探求型の教育を進めていくため、図書館と学校図書館との情報機器の共有及び情報教育の推進が求められる。
- ・「読書」自体を学校教育にどう位置づけていくかが課題である。
- ・本をたくさん読む子と、まったく読まない子に二極化している。

2 狛江市の教育に期待することがあれば、教えてください。

- ・図書館は「学校教育が何を目指していくか」を知り、学校は「図書館をどう利用できるのか」を考え、相互連携を進めていく必要がある。
- ・教育として図書館の理解が深まるよう、図書館の使い方、必要性を示していく必要があるのではないか。

■個別事項

1 図書館のハード面について

- ・学校図書館支援センターを設置し、学校教育における図書の充実を図ってほしい。
- ・公民館や市民活動支援センターと一緒にになるので、多世代交流が図れる工夫をしてほしい。

2 図書館のソフト面について

- ブックスタートを通じて、保護者同士が繋がることに意味がある。単発ではなくブックスタートに対するフォローアップをしていく必要がある。
- 新図書館ができるタイミングで、図書館見学等で子どもを惹きつけるようなPRをしてほしい。
- 子どもたち自身が企画実施する、参加型の事業を増やしていく。また、職場体験のさらなる活用方法を検討してほしい。

3 学校図書館との連携

- 各学校の先生も、教育振興基本計画の内容を自覚した上で、授業等の取組を進めていてほしい。
- 学校に任せるのではなく、セカンドブック・サードブックに対するフォローアップも必要
- 学校ではおはなし会を開催しているが、語りの会なども開催したい。
- 学校にはスクールカウンセラーの他にスクールソーシャルワーカーも各学校に配置してほしい。

4 その他

- サービスの維持を確保するため、司書等の専門職の待遇改善が必要ではないか。
- 基本計画が完成したら、概要版などを学校現場に配布し理解してもらう必要があるのではないか。